



## 【巻頭言】

### 「エレソの持続可能な発展のために」 (エレクトロニクスソサイエティ副会長)

津田 邦男 (東芝)

エレクトロニクスソサイエティ副会長(企画広報財務担当)を担当して2年目になります東芝の津田でございます。宜しくお願いいたします。

エレソ企画会議では、ソサイエティの財務状況把握と予算配分、会員サービスの企画・推進(学術コンテンツ配信、表彰等)、および、広報活動(HP管理、News Letter編集等)を担当しています。また、解決を要する重要課題に対し、アドホック委員で構成されるタスクフォース(TF)を組織化し、詳細な検討を実施しています。

さて、電子情報通信学会は理念(<http://www.ieice.org/jpn/about/rinen.html>)と倫理綱領/行動指針(<http://www.ieice.org/jpn/about/code1.html>)を定めており、そのなかで次のように謳っています。

#### ■電子情報通信学会の「理念」

本会は、電子情報通信および関連する分野の国際学会として、学術の発展、産業の興隆並びに人材の育成を促進することにより、健全なコミュニケーション社会の形成と豊かな地球環境の維持向上に貢献します。

#### ■電子情報通信学会倫理綱領/行動指針 抜粋

前文

電子情報通信技術が現代社会において果たす役割とその可能性は極めて大きい。一方で、この技術の根元である電子や電波あるいは物理的実体のない情報は直接的な理解が難しいばかりではなく、電子情報通信技術の発達や普及が長期的にどのような影響を及ぼすか明確に見通すことも容易ではない。

電子情報通信技術に関わる者は、電子情報通信技術のこのような特質を深く理解し、自らの職業的実践および専門的活動を通じて、全人類社会の健全な発展と地球環境の保全に貢献する責務がある。

本学会員は、これらを認識して広く電子情報通信技術者

が誠意と良識をもって職務を遂行することで尊敬される専門職となることを切望し、次の倫理綱領を遵守する。同時に、本学会は、電子情報通信技術者がこの倫理綱領に合致した行動を取ることができるように、教育と支援に努める。

2. [技術の目的] 電子情報通信技術の研究開発と活用を通じて、人々の安全、健康、福利の向上と社会の発展を目指す。

これらを果たしていくためには学会の持続的な発展が不可欠であり、そのためには学会活動に伴う支出と収入のバランスが重要であることはいまでもありません。しかしながらエレソは今、財務状況の悪化が喫緊の課題となっております。電子情報通信学会全体に共通する課題でもありますが、エレソでは特に顕著です。米田前副会長のもと、財務TFの活動を通じて、安定したソサイエティ運営を可能とする財務体質に改善するための中期計画を立て、予算段階の精度向上、直轄事業費の緊縮施策を打ち出し、各会議の協力の下実行してまいりました。しかし、“緊縮”だけでは財務状況悪化に歯止めがかからない状況になりつつあり、適切な収入の確保を意識しなければならない状況となっております。

現在のエレソの主な収入源は以下の通りです。

1. 会員の皆様からの会費
2. 研究会事業  
15の研究専門委員会が研究会を開催するとともに技術研究報告を発行  
7つの時限研究専門委員会が独自の研究会活動を実施
3. 出版(論文誌)事業  
和文論文誌、英文論文誌に加え、速報性とオープンアクセスを特徴とするELEXを発行

このうち、1はエレスが現会員の皆様と新たな会員となる若い世代の技術者・研究者の皆様にとって魅力ある組織であることによるのみ生まれる収入です。そして、2、3はその魅力の源泉となる事業であり、これらの収入をもとに、魅力を増すべく各種会員サービス事業を展開しております。

([http://www.ieice.org/es/jpn/newsletters/pdf/160/NewsLetter2015\\_04\\_kantougen.pdf](http://www.ieice.org/es/jpn/newsletters/pdf/160/NewsLetter2015_04_kantougen.pdf))。

エレスでは、平成25年度から執行委員会メンバーを中心としたエレス在り方WGを発足させ、エレスが抱える課題の解決にむけた議論を進めてまいりました。その成果の一つが、研究会事業を担う研究技術会議を中心としたエレスの組織改革

([http://www.ieice.org/es/jpn/newsletters/pdf/163/NewsLetter2016\\_10\\_kantougen.pdf](http://www.ieice.org/es/jpn/newsletters/pdf/163/NewsLetter2016_10_kantougen.pdf))として結実いたしました。今年度

からは信学会全体で進めようとしている研究会改革、論文誌改革を踏まえて、エレスとしての研究会改革、論文誌改革の議論を進めております。両改革の主体は研究技術会議と編集出版会議ですが、本ソサイエティが、「電子情報通信技術の研究開発と活用を通じて、人々の安全、健康、福利の向上と社会の発展に貢献」し続けるために、会員の皆様にとってより魅力的な学会となるよう、企画会議としても積極的に関わっていく所存です。会員の皆様のご支援を賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

著者略歴：

昭和58年東北大・工・電気卒、同年(株)東芝入社。以来、化合物半導体デバイスの研究開発に従事。現在、同社小向事業所基盤技術部勤務。平成23年～平成26年本会論文誌(和文C)編集委員、平成25年～平成27年エレス財務幹事、平成27年～エレス副会長(企画広報財務担当)。